

中国の大学教授ら訪問

01

9月30日、中国農業大学の教授5名が当JAの選果施設を視察した。

教授らは「選果やリンゴ詰めを行う方は何人くらい居るのか」「この施設を作るのに期間と費用はどれくらいかかるのか」などの質問をし、これからの中国の農業に活かそうと数多くの質問をしていった。

「中国の現状と比較し、今日学んだことを活かして活性化につなげたい。」と教授らは言っていた。



様々な質問が飛び交った

リンゴ収穫研修

02

当JAのリンゴを販売している「ARCS GROUP」の販売員とバイヤー8名が10月15日、昂林の収穫と当JAの選果施設の視察を行った。

販売員の中にはリンゴを手で収穫することに驚いていた方もいた。販売員らは「これから販売する際には学んだことを消費者に届けていきたい」と意気込んでいた。



リンゴの1年の流れを聞く販売員ら

プロジェクトチーム 始動

03

当JA果樹産地強化プロジェクトチームが10月18日、相馬管内のふじ系統を視察して回った。

様々なふじ系統がある中で色々な比較をする事ができ、どのような品種が生産者に需要があるのかなど意見を出し合つことが出来た。視察後、試食会を行い、試食でしか感じる事が出来ない感想が多く出され、次回の課題も感じている。



色や模様を比較するチームの生産者

お米を沢山食べてね

04

10月23日、全農あおもりは「晴天の霹靂消費拡大キャンペーン」として相馬小学校123名の生徒に、消しゴム、鉛筆、お米の1年の作業が書かれた下敷きが贈呈された。

贈呈には6年生の代表者3名が三上専務理事から受け取り、「お米を沢山食べて大きくなります。」と児童から感謝が述べられた。



児童が感謝を三上専務へ伝える

topics



初挑戦で入賞

05

当JA湯口支所購買課では、「東北地区JA店舗ディスプレイ2019」に参加する為6月14日から約1週間かけディスプレイを作製した。そして、10月16日に表彰式が仙台市にて行われ、4県8JAが参加した。

ディスプレイコンテストには東北地区全部で78店舗が参加し、一等地部門、売り場部門など8種類に分かれており湯口支所は一等地部門で銅賞を獲得した。同部門ではJA岩手中央が2年連続金賞を受賞し、売り場は圧倒的な大きさ



見事銅賞を獲得した当JAのディスプレイ



表彰を受ける田中主任

で圧巻しているという。湯口支所購買課の田中裕滋主任は「来年は1つでも上の賞に行けるようにし、少しでも売り上げが伸びるよう頑張りたい。」と意気込んでいた。

topics

どんな生産者が居るのかな

06

全共連青森県本部では10月30日から2日間、職員2名が当JA直売所「林檎の森」にて研修を行なった。職員は直売所員に教わりながらレジ打ちや、製品の袋詰め、品出しなどを行った。

職員は「売り場などみて様々な種類の作物があり見ているだけでも楽しめるし、お客さんも気持ちよく買い物をしてきている」と感想を述べていた。



時間を忘れ夢中で取り組んでいた

topics

収穫に助っ人参上

07

JA青森中央会主催で農家の労働力不足を解消し、収穫作業を学ぼうという事で、11月2日援農隊として相馬管内の生産者6名の園地にて行った。援農には日本原燃の職員6名と、Aコープの職員6名が参加した。

農業を支えていくのは周りの企業の協力も必要という理由から援農隊が始まり、長い間様々な農業を手助けしている。

今回受け入れた生産者は「今年も援農隊に来てもらうで大変助かっている」と感謝を述べていた。



生産者と農業の現状について話していた